

でに供用している岡山県と香川県を結ぶ瀬戸中央自動車道とともに、いよいよ瀬戸内3橋時代を迎えようとしている。これらの本州四国連絡橋3ルート  
の完成により、西日本地域の産業、経済、文化等が今後ますます発展していくことを期待するとともに、今後とも会員各位の絶大なご支援、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

(本州四国連絡橋公団 工務第一課課長代理  
上村博文)

## 地震防災フロンティア 研究センター開所

N E W S

地震防災フロンティア研究センターが、1月、兵庫県三木市に開所した。このセンターは、阪神・淡路大震災の教訓から、理学的、工学的、社会科学的研究分野を総合した広い視野に立つ研究開発を進めることをめざして、理化学研究所の機動的先端研究プログラムの一環として活動するものである。兵庫県の協力により、県立三木山森林公園内の既存施設を利用して開設されたが、平成13年度には、科学技術庁の三次元大型震動実験施設なども開設される三木震災記念公園(仮称)内へ移設の予定である。

センターは「都市部を中心とする地震災害の軽減をめざす先導的な研究」を総合課題として、センター長には亀田弘行氏(京都大学)が就任した。研究テーマとしては、地震災害過程の総合シミュレーション、地震時危機管理のための災害情報システム、都市構造物の地震時破壊機構と都市の脆弱性評価の3つを掲げており、それぞれ、林春男氏(京都大学)、山崎文雄(東京



大学)、久保哲夫氏(名古屋工業大学)がチームリーダーに就任、共通基盤となる地震防災データベースの構築も視野に入れて研究活動を行うことになっている。

1月27日の開所式では、兵庫県知事や科学技術庁政務次官など多数の来賓や関係者の参加を得て、テープカットや記念式典が行われた。引続いて岡田恒男氏(芝浦工業大学)が「建物の地震対策に求められているもの」と題して、亀田センター長が「地震防災フロンティア研究センターがめざすもの」と題して記念講演を行った。また、3月初旬には、国内外の防災研究者を集めて、「都市地震防災に関するアジア太平洋地域ワークショップ」も開催される。地震防災フロンティア研究センターに関する詳しい情報は、

<http://www.miki.riken.go.jp> をご覧頂きたい。

(東京大学助教授 生産技術研究所  
理化学研究所地震防災フロンティア研究センター  
山崎文雄)

## 関東支部、「土木の日」現場見 学会を実施

N E W S

関東支部交流部会では、土木の日の記念行事として昨年11月20日に現場見学会を実施した。JR総研と建設省甲府工事事務所の全面的な協力を得て、リニア新幹線山梨実験線と国道140号雁坂トンネルを見学した。

山梨実験線では、時速500kmを実現したリニアモーターカーの原理、今後の展望、あるいは試験走行により明らかになった課題などについての興味深い話を聞くことができた。また、リアクションプレートの設置には非常に高い精度を要求されたこと、橋梁などの構造物には背後の富士山と融合するような景観に配慮したデザインを採用したことなど、さまざまな工夫を凝らしていることが印象的であった。

また、雁坂トンネルは埼玉県と山梨県を結ぶ秩父往還として開通後には両県の人的・物的交流が飛躍的に拡大さ



れるとの期待を担い、昭和63年度から工事に着手した。この路線は険しい山岳地帯を通るため、工事の難しさを実感させられた。全長6625mの長大なトンネルであるため、換気設備や避難通路など防災面への配慮が印象的であった。埼玉県側は荒川の源流部にあたり、山肌の険しさ、気候の厳しさを実感させられ、工事関係者には大変なご苦勞があったのではないかと問われた。

当日はあいにくの雨で天候には恵まれなかったが、見学会は約40名の参加者を得て実施され、参加者各位のご協力により無事終了した。

なお、この見学会は「土木の日」の記念行事として実施しており、平成10年度も企画する予定であるので、会員各位の参加を望みます。

(東京都下水道局西部建設事務所 工事第一課長  
関東支部 交流部会幹事 宇田川孝之)

## マニラで地域シンポジウムを 共同開催

N E W S

2月20日から22日にかけて、フィリピン・マニラ市のトレーダーズホテルにおいて、「土木工学におけるインフラ整備に関する地域シンポジウム」(Regional Symposium on Infrastructure Development in Civil Engineering)が開催された。本シンポジウムはフィリピン大学の工学部および国立交通研究所(リカルド シグア所長)と東京工業大学の工学部および都市基盤施設研究体(三木千壽研究長)が共同で主催したものである。日本、フィリピン両国の土木学会、アジア交通学会の後援を得て、日本学術振興会の拠点大学プログラムとして進められた。